

基本計画



- ※検討中
- 第2次茅野市地域創生総合戦略
- 土地利用構想

「幸せを実現できるまち」のさらなる具現化に向けて

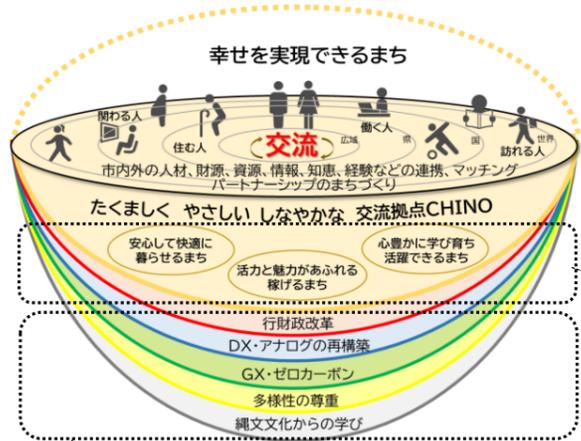
- ・ 3つのまちの姿に落とし込まれたまちづくりの分野を持つ分野別計画（個別計画）から、10年先、20年先を見据えて、この5年間で重点的に取り組む具体的な施策や事業などを基本計画として定め、「幸せを実現できるまち」のさらなる具現化を目指します。
- ・ 基本計画ごとに定める目指す姿や成果指標と目標などを目標3とし、基本構想における目的、目標1、目標2との関係を明確にします。
- ・ これからのまちづくりにおいては、人口減少のスピードや波及するインパクトを緩和しつつ、未来に繋げるために適応した社会システムを構築していくといった、「緩和」と「適応」のイメージを持ちながら、取組を進める姿勢が求められます。
- ・ すべての取組のテーマを「交流」とします。
- ・ 政策・施策連携による相乗効果で交流を促進し、目的の達成を加速化するリーディングプロジェクトとして、3つの『「幸せを実現できるまち」交流創造プロジェクト』を定めます。

基本計画の策定の考え方とあり方

- ・ 市民と行政が一緒に考え、策定し、それぞれの役割りに基づき実行している分野別計画を基本に、優先して解決が求められる課題と、その解決に向けた施策の方向性を重点化し、新たに分野ごとにまとめたものが基本計画になります。
- ・ 総合計画の基本計画に位置付けられていない施策等については、分野別計画に基づき推進します。
- ・ 新たな分野にまとめる際は、分野別計画の括りは一定程度残しながら、関連する施策を統合するなどして、関係する市民、市民団体、職員などが、何を目指し、その達成に向けて、どのように基本となる手段や価値観を活用、共有し、どの分野と連携しながら、何をするのかなど、あらゆる情報が見開き2ページで見て取れるような構成にしています。
- ・ 時代や状況の変化と、それに応じた生じる問題や課題、それを解決するための手段・価値観の変化などにもスピード感をもって対応できるように、基本計画については、これまで以上に進捗管理を確実にを行い、様々な変化に応じてフレキシブルに内容の見直しなどを行っていきます。

すべての取組のテーマ

交流



手段	行財政改革 住民自治、政策運営、財政運営、公共施設の4つの視点
	DX・アナログの再構築 あり方、やり方の見直し、再構築、デジタル技術の導入
価値観	GX・ゼロカーボン 省エネ・再エネの推進、生活様式、働き方、マインドの変革
	多様性の尊重 男女共同参画、多文化共生・国際交流等の推進
	縄文文化からの学び 縄文文化からの学びを活かした取組展開
	地域創生総合戦略 人口減少対策に特化した政策横断プロジェクト

「幸せを実現できるまち」交流創造プロジェクト

3つの政策横断プロジェクトを通じた「交流」の促進により、「幸せを実現できるまち」の具現化を加速します。

市外の人や企業が行き交う**目的**の創造

八ヶ岳の豊かな自然環境の磨き上げとさらなる活用の促進
「デジタル田園健康特区」を軸にした新産業創出 など

市内を人や企業が行き交う**仕組み**の創造

駅周辺、白樺湖周辺、蓼科湖周辺を軸にした交流拠点の創出
「のらぎあ」を軸にした移動の自由の確保 など

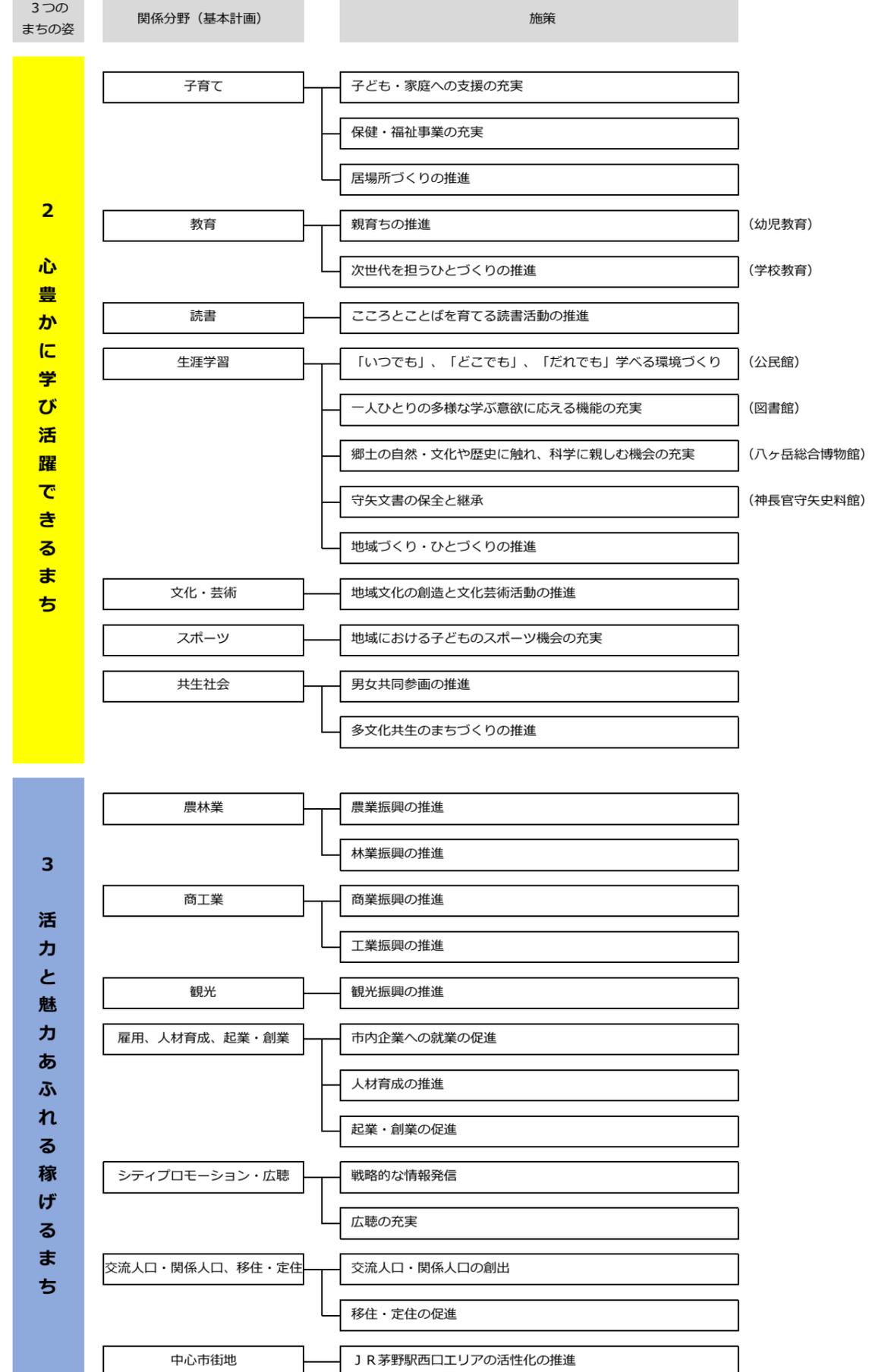
新しい時代に対応した**自治・協働**の創造

コミュニティにおけるの自治の新たな仕組みづくり
市民等と行政との協働の新たな仕組みづくり など

3つのまちの姿と関係分野（基本計画）

1 安心して快適に暮らせるまち												2 心豊かに学び育ち活躍できるまち							3 活力と魅力があふれる稼げるまち						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
社会福祉	地域福祉	健康・食育	地域医療	環境・衛生	道路・河川	上下水道	住環境	公共交通	防災・減災	市民生活	行政経営	子育て	教育	読書	生涯学習	文化・芸術	スポーツ	共生社会	農林業	商工業	観光	雇用、人材育成、起業・創業	シティプロモーション・広聴	交流人口・関係人口、移住・定住	中心市街地

関係分野（基本計画）施策体系図（案）



3つの「幸せを実現できるまち」交流創造プロジェクト

- 基本構想では、茅野市を「幸せを実現できるまち」にする原動力を多様な「交流」としていきます。
- そこで、各政策から重点化した施策をパッケージにした3つの政策横断プロジェクトを推進し、政策、施策の間の連携による相乗効果を発揮しながら、基本構想に定める3つの「交流」の促進を図り、「幸せを実現できるまち」の具現化を加速します。

3つの「交流」の促進

「若者に選ばれるまち」の実現
地域における支え合い、助け合い
“知”の（CHINO）交流拠点の創出

市外の人や企業が行き交う**目的**の創造

- 茅野市の強みや魅力である地域資源や地域ブランド、行政サービス・取組などを磨き上げたり、それらを組み合わせた新たなコンテンツを組成するなどして、市外からより多くの人や企業が市内を行き交う**目的**を創ります。
- こうした目的をターゲットへ効果的に発信します。

※想定する施策

- 八ヶ岳の豊かな自然環境の保全
- 観光振興
- 農業振興
- 関係人口・交流人口の創出
- 移住・定住の促進
- 子育て支援
- DX・アナログの再構築
- シティプロモーションの推進 など

市内を人や企業が行き交う**仕組み**の創造

- J R茅野駅周辺、蓼科湖周辺、白樺湖周辺などを拠点に、市内外の人や企業が交流し、産業やビジネスなどを生み出す**仕組み**を創ります。
- 市内外の人が市内各所へ自由に移動ができる、安心・快適な地域公共交通網を構築し、経済活動や社会参画のきっかけづくりを行います。

※想定する施策

- 公共交通網の充実
- 安全・快適なインフラ整備
- 産学公連携の推進
- 観光振興の推進
- 中心市街地活性化 など

新しい時代に対応した**自治・協働**の創造

- 茅野市の強みである公民協働の「パートナーシップのまちづくり」は、時代の変化とともに、まちづくりの仕組みとして、現在の状態を維持することが難しくなっています。
- 若者の流出などにより人口減少、超高齢化が進む地域においては、担い手が減少しています。
- 一方で、行政だけでは解決できない課題は増加しており、地域における市民同士の協働と、市民と行政との協働（公民協働）のあり方などを整理、再構築し、新しい時代に対応した**自治と協働**を創ります。

基本となる手段と価値観の活用、共有のポイント

- 基本計画の推進にあたっては、基本構想に定めた2つの「基本となる手段」と3つの「基本となる価値観」を常に意識し、取組を進める中で積極的に活用、共有していきます。
- そのために必要となる、すべての基本計画に共通するポイントを、次のとおり定めます。
- 分野に特化した取組については、各基本計画の中にアイコンで表示しています。

行財政改革

- 目的 茅野市が将来に渡って持続可能な行政体であり続けるために、「若者に選ばれるまち」、「幸せを実現できるまち」を目指したまちづくりの推進

- 行財政改革の視点

旧態依然の考え方や手法、体制などから脱却し、現在の社会ニーズへ対応することを旨とし、次の視点で取組を見直します（優先改革事項の基本的な考え方から抜粋）。

- 効果が限定的あるいは効果の測定が難しい事業や、利用者が少なく不採算な施設の見直し。
- 事業開始時の考え方や、現在の分野別計画は尊重しながら、限りある財源と人員で提供可能なサービスへの質的・量的転換と重点政策への資源の集中。
- 合併前の旧町村単位（現在の10地区）を基準とした枠組みの見直し・再構築など、より効率的・効果的な行政運営・サービス提供体制への転換。
- 公共施設の統廃合による、施設のランニングコストや改修費用の抑制。
- 施設使用料や行政サービスの受益者負担に加え、パートナーシップのまちづくりのあり方を含む、市民と行政の負担の見直し。

DX・アナログの再構築

- “人”中心のサービスの提供
デジタル技術やデータを活用することにより、一人ひとりの“人”のニーズに合わせた、きめ細やかなコミュニケーションやサービスの恩恵を受けられる、“人”を中心としたDXを推進します。
- 「ゆとり」を生み出す
アナログの仕組みを見直し（「アナログの再構築」）、人の手ではなく省力化や効率化が求められる部分は、デジタル技術やデータを活用した仕組みに置き換える（「デジタル・データの利活用」）ことで、人の暮らしに「ゆとり」を生み出すことができます。この「ゆとり」は、茅野市を「幸せを実現できるまち」にする大きな要素の一つになります。
- 課題解決の手法として
社会経済情勢の変化により、これから茅野市が直面する課題は複雑多岐に渡ります。こうした課題の解決に向けては、デジタル技術やデータの活用が有効になる場合もありますが、デジタル化ありきで考えるのではなく、そもそもデジタル化すべきなのか、人の手を組み合わせた方が良いのではないか、など様々な視点で解決方法を検討する必要があります。
- 自分が創る、みんなのDX
産業界、病院、大学、関係機関民間事業者等と行政が連携しながら、地域が一体となり、誰もが自分ごととして安心・安全にDXに参加し、その恩恵を受けることができるような体制や環境を整えます。

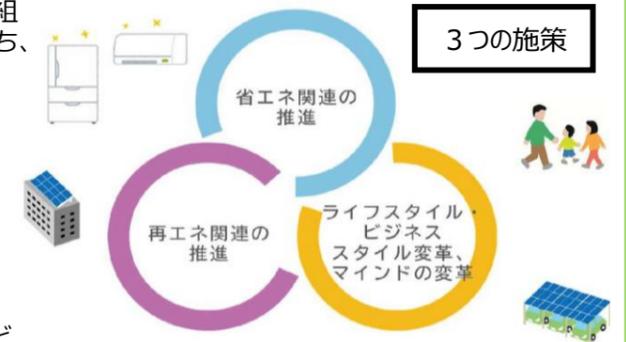


GX・ゼロカーボン

- 目指す姿（脱炭素ビジョン）
「茅野市の自然を守り・活かしながら、人々が健康に暮らせるまちづくり」
- 成果目標（KGI）
2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で54%削減し、2050年度までにゼロカーボンシティを実現

- 共有する価値観

- ゼロカーボンへの意識を高めるための普及啓発の取組を通じて、地球温暖化、気候変動を知り、関心を持ち、自ら調べ、周囲へ発信することを目指します。
- 環境に配慮した車両の導入、利用や、エコドライブ、ノーマイカー通勤などを進める。
- 照明のLED化、ZEB化・ZEH化などの省エネ推進や、太陽光発電設備の導入などの再エネ活用の検討を進める。
- 環境にやさしい製品、リサイクル製品を積極的に使用、ごみの削減や分別の徹底などを進める。 など



多様性の尊重

- 他者への寛容性を基本に、すべての人が年齢、性別、国籍、人種などに関わりなく、多様性を認め合い、それぞれの違いや個性を強みとして活躍できるまちを目指した取組を進めます。
- 男女がお互いの特性と人権を尊重し、それぞれの個性や能力を発揮し、男女平等の理念により、いきいきと生きる「男女共同参画社会の実現」を目指します。（第4次茅野市男女共同参画計画（はつらつプラン21）基本理念から抜粋）
- 国籍や文化の違いを超えて、市民がお互いを尊重し、対等な関係を築き、共に生きることができるとする社会を実現するための取組を進めます。（茅野市多文化共生・国際交流推進計画基本理念から抜粋）
- 近年、ジェンダーやLGBTQと言われる性的マイノリティに対する偏見や差別が問題になっており、こうしたカップルを結婚に相当する関係と認める長野県の「パートナーシップ届出制度」と連携し、茅野市でも、この制度によりパートナーと認められたカップルが、一部の行政サービスを利用できるよう配慮を行っています。



縄文文化からの学び

● (縄文プロジェクト前文から)

縄文人の生き方、その精神性に触れるとき、そこに今を見つめ直し、未来を照らす大切な価値を見い出します。

- ・約1万年にわたり続いた定住生活が可能にした支え合いや助け合いの生き方は「**友愛の心**」を象徴していると言えます。
- ・食料にする木の実や住居の材に使用する林などを大切にし、自然を必要以上に壊さないという生き方は、自然と共生し、「**足るを知る心**」を象徴していると言えます。
- ・豊かな生活を求めて交易をおこない、東北や北海道まで黒曜石を運ぶなどの情報交換能力やフロンティア精神は、「**たくましさ**」、「**冒険心**」を象徴していると言えます。
- ・草を罨にする、土を器にする、黒曜石を矢じりや刃物にするなど、そこにある資源を上手に活用する知恵と工夫の生き方は「**創造の精神**」を象徴していると言えます。

こうした縄文時代の人々の生き方や縄文文化の精神性を学ぶことにより、現代社会の課題解決につなげていく学びのできるまちづくりを推進します。

- 3つのまちの姿 …………… 安心して快適に暮らせるまち
- 関係分野（基本計画） …… 保健・医療・福祉

SDGs

目標3

目指すまちの姿

成果指標と目標

実現したい交流
大切にしたい交流

Well-Being指標と目標

与件の整理と施策の方針等

茅野市の強み

- 現状と課題1
- 現状と課題2
-
-
-

-
-
-

基本となる手段・価値観

主な事業

-
-
-

関連計画等

-
-
-